

●三位 一体後第三主日

泉のほとり

今月の詩編 「第三十四編」

味わい、見よ、主の恵み深さを。

いかに幸いなことか、

御もとに身を寄せる人は。



彼らを愛し抜かれた

ヨハネの福音書13章は、主が「この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた」と始めています。「この上なく愛し抜かれた」とはより正確には「最後まで愛された」という文章です。夕食の時、突然、主が食事の席から立ち上がって上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまといわれ、たらいに水を汲んで弟子たちの足を洗い、腰にまとった手ぬぐいでふき始められました。

ペテロは「私の足などを決して洗わないでください」と拒否しました。しかし、主は「今は分からない。後で分かるようになる」と言われ、ペテロの足をも洗われたのです。「洗わないでください」と言うペテロの謙遜は、主が弟子たちの足を洗われるその謙遜とは違うものです。それは仲間であるヨハネやヤコブ、トマスの足を洗うことができるという意味での謙遜ではありません。むしろ一人の召使いのように仲間の足を洗うことなどできないからこそ、そのようなことを、主にさせるわけにはいかないというところでしよう。当時、誰が一番偉いかと、互いを見測った弟子たちに仲間の足を洗うことは屈辱と思われることです。

召使いにとつて主人の足を洗うことは難しいことでも屈辱でもありません。人の足を洗ったからといって「謙遜な人だね」と褒められることもないのです。なすべきことをしたただけだからです。召使いがへりくだりをへりくだりとも思わないところに、わが主のへりくだりを垣間見るのです。

主が弟子たちの足を洗い終わられると、上着を着て、再び席に着いて言われました。「主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならぬ」と。主は「召使いであるわたしがあなたの足を洗った」と言われていません。「主であり、師であるわたしがあなたの足を洗った」と言われたのです。しかも「洗い合わなければならぬ」と教えておられるのです。謙遜を謙遜と思わない、なすべきこと、当然のことということなのです。

3年ほどの年月を、主は12人の弟子たちと行動を共にされました。3年間を共に過ごす、人の性格、くせ、欠点など、いろいろと見えてくるのです。だからこそ、その人の召使いのようにはなれない、なりたくないと思うのです。彼らは共に主と過ごしながら、毎日、主がご自身のことを忘れて、日々、人のために働かれるお姿をこれまで見てきていながら、いまだに仲間たちの汚い足を見てなんとも思わず、水を汲んでこようとも思わなかったのです。むしろ、誰が偉いかと互いを見る愚かさを持っていたのです。

主が身柄を捕らえられる時、全員、ご自分から離れていくことを主は知っておられました。イスカリオテのユダは主ご自身を売り渡し、ペテロは3度、ご自分を否むことをご存知です。それを知っておられながら、一人一人の足を洗われたのです。愚かだからこそ、最後まで、その愚かな心がへりくだるようにと導かれた主の深い御心。主イエスは3年もの間、その彼らを忍耐し、彼らと共におられ、導かれたのです。なお十字架の死に至るまで、彼らのためにへりくだられた主。弟子たちはそのようにしてこれまでずっと、また最後まで自分たちの足を洗ってこられたことに、後で、気づくのです。

3年間のお働きを終え、最後まで愛された11人の弟子たちに、主が最後に求められたのは「互いに足を洗い合う」ことでした。「社会に仕え、世界に仕える」ことではなく、1人が「互いに足を洗い合う」ことでした。それが現実にならなければ、この世の人々に仕えることも大言壮語に過ぎないものでしょう。

私たちもかつて十字架に逆らう者でした。愚かな道を歩み、自分を先に、上に、と。そのような我々をこの世から召し出し、私たちも足を洗ってもらったではありませんか。主イエスに従い、また使徒たちが主の足跡をついて歩かれたように、私たちも人を裏切らず、自分自身を裏切る人に対しても、真実な愛の業をなし、深い主イエスのご配慮を行って生きてい。これからもそのキリスト愛の業を生きるよう目指し、努めていきたいと思えます。

2024年度

教会全体課題

聖書の御言葉に生きる。

《今日のお知らせ》

○ 定例役員会をカナルームで行います。役員の方はご出席ください。

《ぶどうの会より》

○ 礼拝後、第二・三シオンルームでぶどうの会を行います。

《今後の予定》

- 七月七日 信仰者に学ぶ会
- 七月一〇日～一二日 附属幼稚園奥多摩キャンプ
- 七月二四日 諸聖徒記念礼拝

《礼拝伝道委員会より》

- 六月二三日(日)の礼拝後、一二時から地下ホールで、小グループに分かれて話し合う「御言葉の分かちあい」の会を行いますのでご参加ください。(一二時四五分終了予定)

《シオンの会より》

- 六月一九日(水) 一〇時三〇分～一二時シオンの会を第二第三シオンルームで行います。(オンラインも併用します。)
 - テキスト 「聖書が教える世界とわたしたち」
 - ◆ 救いの実現 (16) 荒野の誘惑 一一八ページ
- 上段三行目から読みます。参加をご希望の方は川越啓子姉までご連絡ください。

《ジュネーブ教会信仰問答》

第七聖日後半

使徒信条「処女マリアから生まれ」に関して

問五〇ではわれわれに固有な肉を着ることは、必要であつたのですか。

答 はい。人間が神に反抗して犯した不従順は、人間性の中で償われなければならないからであります。そしてまた、そうしなければ彼は、われわれをその父なる神に結ぶべきわれわれの仲保者とはなれなかつたのであります。

問五一ではイエス・キリストは、あたかもわれわれの固有の人格においてのごとくに、救い主の役目を果たすために、人間とならねばならなかつたというのですね。
答 その通りであります。われわれは自らに穴けているものをすべて、彼において回復しなければなりませんから。このことは、それ以外ではなしえないのであります。

問五二しかしなぜ、このことが聖霊によつてなされ、自然の秩序通りに、男の業には少しもよらなかつたのですか。

答 なぜならば人間の種はそれ自体汚れておりますから。われわれの主をあらゆる汚れから防ぎ、潔さをもつて満たすために、聖霊の力がこの受胎に介入しなければならなかつたのであります。

問五三以上のところから、他の人々を聖化すべきお方は、全く汚れなく、また人類に一般的な汚れに少しも染まずにあるため、初めからの純潔のまま、母の胎より神に捧げられなされたということが明らかにになりました。
答 そう思います。

外山八郎訳（新教出版社1979年）使用

《今日の子ども礼拝》

説教 「夢見る人ヨセフ」
聖書 創世記37章1〜11節
説教者 吉村和雄 名誉牧師

《次週の礼拝》

●子ども礼拝（午前9時20分・地下ホール）
説教 「大臣になるヨセフ」
聖書 創世記41章41〜44節
説教者 宮間彰広 兄

●主日礼拝（午前10時30分）
讃美歌 491番 333番
説教 「サタンに操られやすい人」
聖書 ヨハネ13章21〜30節
説教者 黄允湜 牧師





主日礼拝 (午前10時30分)

讃美歌 74番 336番
説教 「自分のものと言う者はなく」
聖書 使徒4章32節～37節(新約 P.220)
司式 石川 一 兄
聖餐司式 黄 允湜 牧師
説教者 宮間 彰広 兄

前奏曲「我ら唯一の神を信ず」J.ハッセルベル

○讃美歌74番

- 涯しも知られぬ あまつ海原を
わたるや朝日の うららに匂いて
み恵みあまねき 父なるみかみを
あらわす光ぞ 日々に新なる
- 暮れゆくみ空に 月星ほのめき
盈ちかくる影に 変るきらめきに
ときわに変わぬ みかみの真理を
あらわす光ぞ 夜々に明かなる
- 昼はものいわず よるは語らねど
声なきうたごえ 心にぞひびく
「われらの生命に まします御神の
律法はかしこく 稜威こよなし」と

アーメン

○聖歌隊による讃美

「我が心に」 水野源三 作詞 川口 耕平 作曲

- 我が心に望みがあり
キリストが与えてくださった
悩みの時も変わらない
まだ見ぬものを待つ望みが

- 我が心に喜びあり
キリストが与えてくださった
月日がたっても消えない
この世で得られぬ喜びが
- 我が進みゆく道があり
キリストが開いてくださった
暗くあろうと迷わない
御国(みくに)へ至る嬉しき道

○讃美歌336番

- 主イエスよ 十字架をみ手より受けて
われは世のほまれ むなしき望み
棄つとも惜しまじただ主によりて
みかみの国をば 得るぞうれしき
- わが身のたのしみ わがもつたから
ことごとこの世は うばい去るとも
われはかなしまじ ただ主によりて
みかみの富をば うるぞうれしき
- われはめぐみより さかえにすすみ
のぞみはまことに いのりはうたに
やがてかわりゆかん ただ主によりて
みかみの愛をば うるぞうれしき

アーメン

聖餐曲「ここも神のみ国なれば」D.ウット

後奏曲「めぐみ豊けき主を」J.カキス

※礼拝のしおりと讃美歌をお持ちください。